

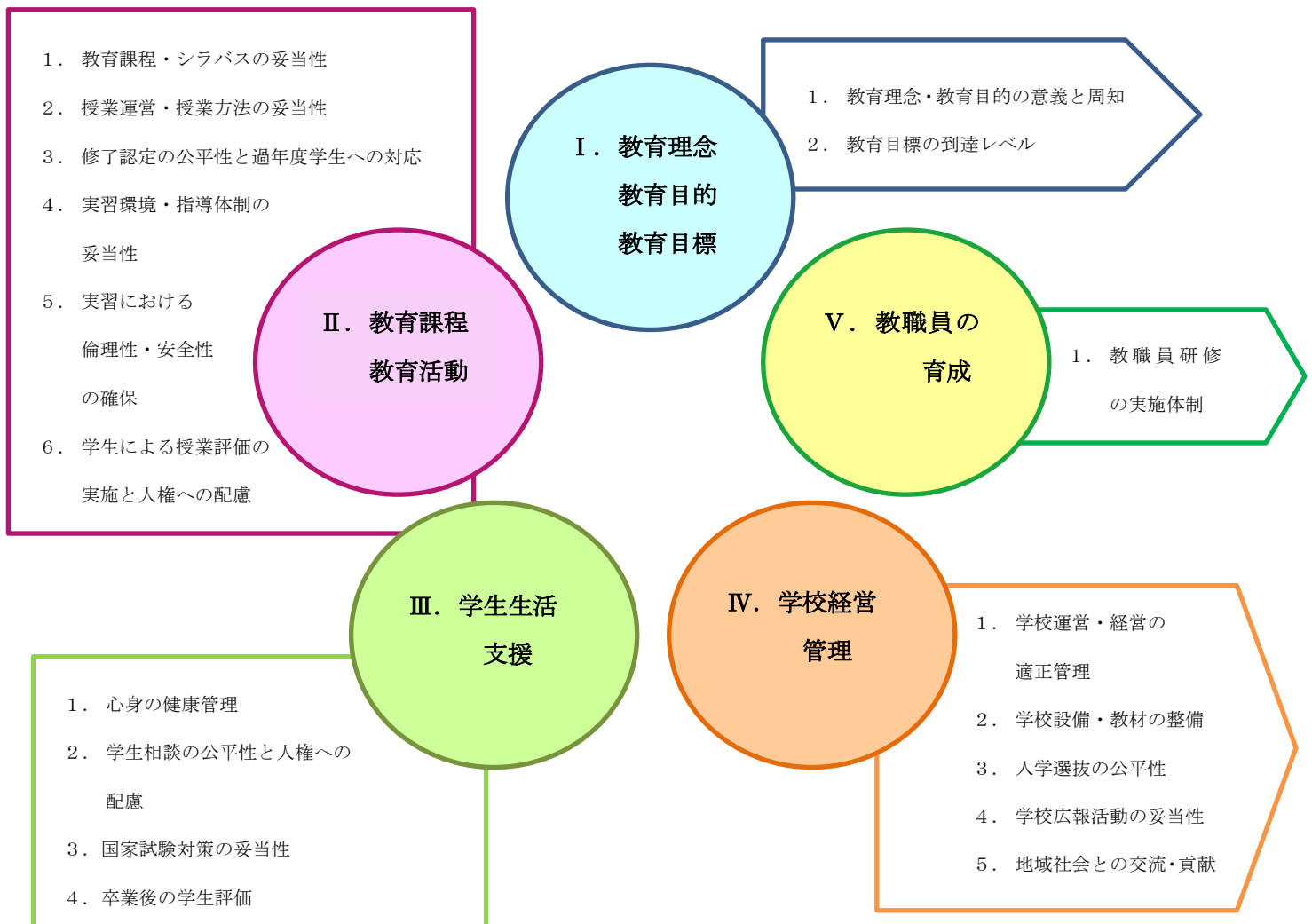
### 《学校自己点検・自己評価のねらい》

本校の看護基礎教育は、3年課程である第1学科は19年目、2年課程である第2学科は39年目を迎えました。准看護教育を含めると半世紀に及び教育活動を続けており、確かな実績と伝統に支えられています。地域社会や保健医療福祉領域に貢献する優れた看護師を育成するためにも、看護学校として質の高い教育体制を確立すること、学生にとって学習しやすい環境を整えることが重要だと考えています。

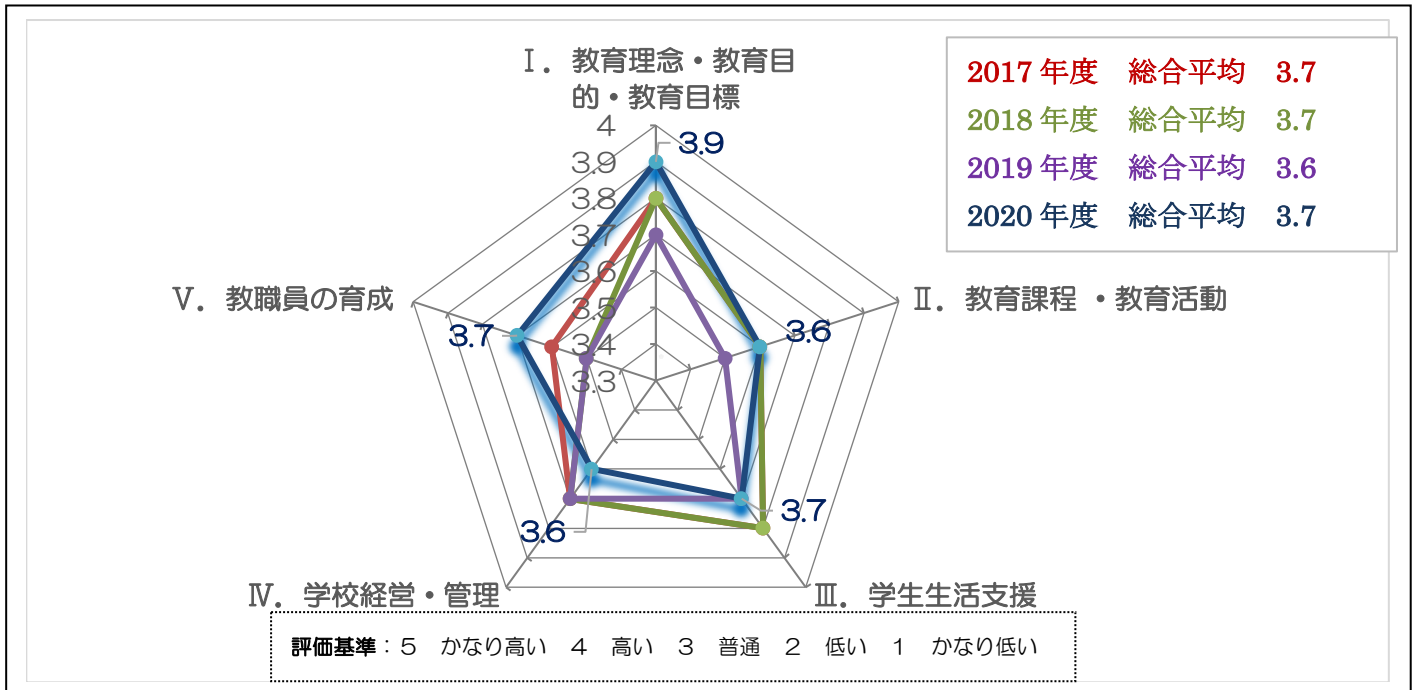
本校では時代の趨勢を見極めながら看護教育水準の向上を図るために、平成18年度から自己点検・自己評価委員会を発足させ、授業評価のあり方から議論を重ねてきました。そして、平成24年度から学校組織全体を総合的に「自己点検・自己評価」し、その結果を公開しています。

本校の基本理念である「人類愛」を実現し、「愛し愛される看護師」を育てるために、地域の皆さまや患者様から、また看護師を目指す若者・ご家族の皆さまから信頼され、「開かれた魅力ある学校づくり」を目指しています。本校の教育活動その他の運営状況について客観的に評価を行い、良い面はさらに伸ばし、また改善すべき点は明確にして、看護教育活動のさらなる向上を目的に努力し続けていく学校を目指し続けていきます。

### 《学校自己点検・自己評価の評価項目》



## 2020年度 学校運営 自己点検自己評価（2021年1月実施）



2020年度、教職員による自己点検・自己評価は、「実習における指導・協力体制」と「地域との協力体制」が昨年度より低下しましたが、それ以外の項目は上昇もしくは同等の評価で総合平均点は3.7と昨年度より0.1上昇しました。大項目の【I. 教育理念・目的・目標】3.9【II. 教育課程・教育活動】3.6【IV. 教職員の育成】3.7で昨年度より上昇し【III. 学生生活支援】3.7で昨年度と同様で、低下したのは【IV. 学校経営・管理】3.6でした。これは、＜5. 地域社会との交流・貢献＞が0.7と大幅に低下したことによるものです。コロナ感染症予防のために、例年依頼していた演習のための模擬患者役を地元の方をお願いすることができないことや地域の清掃活動でもコミュニケーションを積極的に取ることができなかったことによるものと考えます。新カリキュラムの構築において、地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしの支援を強化していく必要があることから地域社会との交流や貢献ができるように仕組みづくりをしていく必要があります。

また、今年度は、【I. 教育理念・目的・目標】の項目が特に第1学科で4.2と高得点でした。これは、新カリキュラムの構築に向けて教員全体で検討会を実施したことにより教員間での理解が深まったことによるものと考えます。それ以外の高得点は＜II-4. 実習における倫理性・安全性の確保＞の4.1でした。特に、患者さんへの倫理的配慮に関しては、各実習前のガイダンスやオリエンテーションでSNSに関する補習講義やコロナ感染対策に関する本校のガイドラインの提示、繰り返し指導するなど学生への意識付けを強化しました。

評価項目の低いものは＜II-4. 実習環境・指導体制の妥当性＞で3.3でした。これは、特に今年度のコロナ感染症拡大防止のために臨地実習を学内で代替したり、臨地実習でも学生が体験できる援助が制限されたりと教員の負担が大きく病院との連携が十分に取れなかったことが影響していると考えられます。次年度も感染予防対策を継続しつつ、効果的な実習ができるように実習調整者を中心に実習施設との相談や連携を強化していく必要があります。さらに、新カリキュラム構築による実習施設の申請や準備等を平行して行う必要があるので計画的に運営できるようにしていきたいと考えています。

「III-3. 国家試験対策の妥当性」は3.6と昨年度と同様でした。コロナの影響で最終段階での学習の強化が例年のようにできない状況でした。その中でも感染防止対策を行い個々の学生のレベルに合わせた指導をしてきました。国家試験の結果は、第1学科97.5%（81名中）、第2学科100%（36名中）でした（全国平均新卒者95.4%）。本校の長年築き上げてきた対策方法も学生の特性や出題傾向の変化から新たな方法など工夫していく必要があると考えています。国家試験の学習だけでなく、学生が自立して学習を継続できる教育方法を検討していきます。そして、第2学科は2022年3月で閉課程となるため、教員間で協力し学生指導を強化すること、また、第1学科は、新カリキュラムの構築を行い、本校の未来像を見出ししていく1年としたいと考えています。